

EMS ニュースの第 13 号をお届けします。

米国の ACEP (米国救急医学会) が、傷病者の取り扱いについて、従来の方針から新しい方針へ、2 つの変更を発表しました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、びっくりする内容かもしれません。詳しい内容については、下記をご覧ください。



Journal of
Emergency
Medical
Services

米国救急医学会が新しいポリシーステートメント (方針声明) を発表

ACEP releases Update Spinal Injury & Hemorrhage Control Practices

(JEMS may 2015, Evidence-Based Practices より抄訳)

米国救急医学会 (ACEP - American Collage of Emergency Physicians) は、科学的根拠に基づいた二つの新しい方針を発表した。それは脊椎損傷の疑われる傷病者と多量出血の傷病者の処置に関する方針変更である。ACEPは他の同様の組織とも連携を図り、EBM (Evidence Based Medecine= 科学的根拠に基づいた医療) を背景として実践され、それが患者ケアの新しい指針となり、アメリカ全土で正式採用されるであろうとしている。

脊椎の損傷が疑われる患者の病院前ケアに際しては、しばしば予防措置としても EMS プロヴァイダーはバックボードと頸椎カラーを用いるが、ACEP は現在のこの手法には科学的な根拠がないとしている。今までのケア法では、次のような傷害の原因となっている場合があることが実証されている。気道傷害・呼吸機能障害・組織虚血・頭蓋内圧の上昇・疼痛の増加。結果的に、画像診断の増加・死亡率の増加につながりかねない。

ACEP は、脊椎動揺の制限 (SMR=Spinal Motion Restriction) は NEXUS(National Emergency X-radiography Utilization Study) あるいは CCR(Canadian C-spine Rule) 基準に合致する場合に考慮され、明らかな鈍的外傷と次のような症状の傷病者に使用されるべきだとしている。(意識レベルの変化や臨床的中毒症状、正中線脊椎痛や圧痛、局所的神経原性の徴候や症状、脊椎の解剖学的変形、牽引損傷)

ACEP は、また、バックボードは病院内にあっても病院外であっても治療介入や予防措置として用いないほうが良いとしている。この点については、もともと多くのケースで、バックボードは必要としなかったからだ。脊椎損傷の疑われる患者へのバックボードの適用は、ベトナム戦争時に始まった。しかし、時の経過とともにバックボードに関する研究は、異なる結論を導き出した。脊椎損傷の最悪のケースを捉えて、損傷の程度に係わらず、だれでも全脊柱固定をするのは正しいだろうか。特に、高齢者に適用するには否定的な側面がある。

第 2 の方針では ACEP は病院前における重度出血のコントロールを重視している。直接圧迫止血あるいは圧迫包帯による止血 (注*1) に効果がないときは、軍用 / 民間の使用において実績を積み上げて来たターニケット (*2) を考慮すべきだとしている。

新しい方針は、止血プロトコールに動脈出血の止血において実証されている市販のターニケットを取り上げるべきだとしている。

さらに、患者を医療施設に搬入するまでターニケットは緩めてはならないこと、ターニケットが使えない時には、直接圧迫止血あるいは圧迫包帯止血と同時に止血材包帯 (*3) の併用、ターニケットが四肢の動脈出血に対する第一選択でよいこと、トラネキサム酸 (*4) の有効利用を考慮すること、そして EMS に対してターニケットと止血材包帯を用いた止血法についてトレーニングを行うべきだとしている。

新しい方針は、今、ローカル水準に適応された案を作成する長いプロセスの最終段階にある。

このプロセスは ACEP ならびに国の同様の機関によるポリシーステートメントとして始まる。それから、全州において正式採用され、続いてアメリカ中のそれぞれの管轄区で、ローカルプロトコールとして正式採用されるだろう。

医療プロセスにおける新しい手法の採用には長時間を要するものである。

しかし、SMR を例にとれば、これは各地ですでに実施されている。患者のロングスパンボードによる搬送は行われなくなり始めた。人々は SMR がしばしば患者を傷つけていたことに気が付いた。

*1 止血法: AccordNews07 参照

*2 ターニケット: AccordNews06 参照

*3 止血包帯材: AccordNews 07 & 10 参照

*4 トラネキサム酸: AccordNews10 参照

☆ 製品紹介 ☆

NAR ターニケット EMS

救急ターニケット
四肢を締め付け止血する。ロッドを回し、きつく締め付け、確実に血液の流れを止める。緩めるときも、ロッドをストッパーから外すだけで簡単にできる。



キトサム 100

止血包帯材

出血部にキトサムを当て圧迫すると、3分以内で止血ができる。キトサムの独自の作用で凝固し血餅を形成する。さらに、人体への有害性もなく、血栓を作ることもない。



あとがき

バックボードの話題については、賛否あるかと思いますが。しかし、アメリカの最近の動向として、見てください。アメリカ全土に広がるにはまだまだ時間がかかるようです。

代表取締役 山本博太

アコードインターナショナル株式会社
151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-9-4-1005
TEL:03-3299-6751 FAX:03-3299-6752
e-mail: Accord@accord-intl.com http://www.Accord-INTL.com

